

## 放課後等ディーサービス事業に係る自己評価結果公表用

公表日:3年2月12日

事業所名: 通園(ディーサービス)事業おれんじくらぶ

事業所職員及び保護者の方の御意見を踏まえ、自己評価の結果を公表します。

評価を踏まえて、事業所の運営における課題点及び改善すべき点を確認し、今後の運営に活かしていきます。

区分	チェック項目	事業所の現状評価			保護者の方の評価			評価を踏まえた 改善内容・改善目標
		現状 状況 の把握 度合い	改善 度合い	工夫した点、改善点	現状 状況 の把握 度合い	改善 度合い	保護者の方のご意見	
環境・体制整備	1 利用定員に応じた指導訓練室等スペースの十分な確保	2	2	バーテーションを活用しスペースを確保しているが、適切な環境でないを感じる事がある。	9	2	利用者が複数いる時には狭く感じる事があるが、人数の調整など工夫されていると思う。	環境の改善と合わせて今後のおれんじくらぶでの放課後の実施の在り方についても、検討の必要があると感じている。
	2 職員の適切な配置	1	3	男性職員による支援を求める場面がある。適切な支援ができるようするために、職員数により時間毎に入会調整が必要な事もある。	11			女性職員のみの為、支援の観点から男性職員の登場を積極的に検討したい。
	3 本人にわかりやすい構造、バリアフリー化、情報伝達等に配慮した環境など障がない特性に応じた設備整備	1	3	療育内容や対象児に合わせて、できるだけ適切な環境設定を意識しているものの、設備上困難な場面もある。	11			今後も可能な限り、個々の特性を考慮した環境整備に努める。
	4 清潔で、心地よく過ごせ、子ども達の活動に合わせた生活空間の確保	1	2	活動に合わせた空間の設定を心がけているものの、ワンルームの中での調整の為、子どもたちにとって不十分な事もある。	11			安心や安全である事が保障されるように、今後もできる限りの工夫をしながら子どもたちが満足して利用できるようにしていきたい。
業務改善	1 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)への職員の積極的な参画	4		できるだけミーティングの時間を設定し、職員の意識統一などを心がけている。				子どもの直感的療育時間も大切であるが、職員間での情報共有の時間もしっかりと確保したい。
	2 第三者による外部評価を活用した業務改善の実施		4					
	3 職員の資質の向上を行うための研修機会の確保	4						必要な研修については、参加する。事業所内での研修実施も引き続き計画する。
適切な支援の提供	1 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上での児童発達支援計画又は放課後等ディーサービス計画の作成	4			11			
	2 児童発達支援計画又は放課後等ディーサービス計画における子どもの支援に必要な項目の設定及び具体的な支援内容の記載	2	2		11		親の希望を話の中から適切にくみ取ってください。子どもに合った支援をしていただけます。	ガイドラインを基に、本人と保護者の意向をくみ取ながら、当事業所内でできる支援を計画している。
	3 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせた児童発達支援又は放課後等ディーサービス計画の作成	4		放デイにおける集団活動を取り入れるようになって、子どもたちの新しい発見ができる。保護者のニーズにこなえる事でたり、個別療育だけでは伝えられない子ども姿を保護者と共にできるようになった。				実施する実績時間まで対象児が設定されていることや、限られた時間で何をやるかの問題はあるが、専門に限らず多くの活動も盛り込みながら、可能な範囲での集団活動の取り組みを継続していく。中高生についてでは、曜日や時間に制限がある中での利用をお願いしている。希望のある方について、できるだけ御希望に添えるよう計画している。
適切な支援の提供(継続)	4 児童発達支援計画又は放課後等ディーサービス計画に沿った適切な支援の実施	2	2	計画に沿って実施という意識はあるものの、うまく実践できない事も多々ある。	11			
	5 チーム全体での活動プログラムの立案	1	3	集団療育は担当のグループリーダー、個別療育はその担当する職員が自らに立案するが、必要時には他の職員に相談をしながら決定するようしている。				
	6 活動プログラムが固定化しないような工夫の実施	3	1	特に集団の活動の際には、職員間で相談をしながら、子どもたちがどのようにすればどの子も楽しめる時間を過ごせるかを検討している。	11			実施した内容を振り返り、支援としての質を向上させるために、子どもたちが楽しむことができるような内容を考えています。その為に、保護者からの意見に耳を傾けたり、他事業所の取り組みを参考にしたりする。
	7 平日、休日、長期休暇に応じたきめ細やかな支援	3	1	平日は、個別療育により、頻々に合わせた連続療育のあり内容や季節行事を意識した内容を取り入れている。長期休暇中は、户外活動などの活動内容を積極的に取り入れるようにしている。				個別療育、集団活動の意義を事業所として明確にして、できる取り組みに挑戦していきたい。
	8 支援開始前における職員間でその日の支援内容や役割分担についての確認の徹底	3	1	特に集団活動においては、確認を意識するが、個別療育については、確認不足があると思われる。				(当然のことではあるが)個別療育については、その日担当する職員が主になりながら、特に配慮したいことなどを職員間に確認しておこうにし、どの職員も個々の子どもに合った対応や配慮ができるようにする。
	9 支援終了後ににおける職員間でその日行われた支援の振り返りと気付いた点などの情報の共有化	4		療育実施後に振り返りをする事を意識しているもののスケジュール上、その他の時間設定ができず、記録での確認のみになる事が多い。				療育実施後に振り返りの時間をあえて設定するように心がける。
	10 日々の支援に関しての正確な記録の徹底や、支援の検証・改善の継続実施	4		記録は継続し、利用児に対し、どの職員が対応しても必要な配慮ができるよう意識している。				記録の方法(様式)を検討していく。(必要な記載内容や量)
	11 定期的なモニタリングの実施及び児童発達支援計画又は放課後等ディーサービス計画の見直し	4						
関係機関との連携	1 子どもの状況に精通した最もふさわしい者による障害児相談支援事業所のサービス担当者会議への参画	4						
	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)							
	地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援の実施							
	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)							
	子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制の整備							
	児童発達支援事業所及び放課後等ディーサービス事業所からの円滑な移行支援のため、保育所や認定こども園、幼稚園、小学校、特別支援学校(小学部)等との間での支援内容等についての十分な情報共有	4		相談支援との協働により、以前よりも学校との関係が取りやすくなった感じるものの、まだ不足している。				保護者の理解をしっかりと得ながら、どの子どもにとどまらず常に必要な場面において連携できるようにしていきたい。
	他の障害福祉サービス事業所等への円滑な移行支援のため、それまでの支援内容等についての十分な情報提供	1	2	一部ではあるが、相談支援専門員により今年度高等部卒業後の行先との情報共有の機会を持つ事ができた。				必要な情報は事業所間で共有できるように関係を継続していきたい。
	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携や、専門機関での研修の受講の促進	1	2					
関係機関との連携(継続)	児童発達支援の場合の保健所や認定こども園、幼稚園等との交流や、放課後等ディーサービスの場合の課題後児童クラブや児童館との交流など、障がいのない子どもと活動する機会の提供	2	2	町内法人間の取り組みとしての夏休みボランティアにおいて、利用児以外の小学生から高校生までの子どもとの交流が実施できた。(また活動を楽しむ)療育の内容の一つとして児童館に遊びに行く事がある。	7	1	1	子どもと保護者のニーズを確認したうえで、積極的に地域資源(場所、人)を活用する事を意識した内容を考えたい。
	事業所の行事への地域住民の招待など地域に開かれた事業の運営	2	2	事業所内での行事への参加よりも、地域での行事への参加がある。				地域住民との間の持てる方法を検討しながら、事業所として開催にからなりような場所にしていきたい。(同じ法人の保育所と併設している事はメリットとかんがえられる)

区分	チェック項目	事業所の現状評価			保護者の方の評価			評価を踏まえた 改善内容・改善目標
		はい いいえ どちらともい かない	いいえ いいえ どちらともい かない	工夫した点、改善点	はい いいえ どちらともい かない	いいえ いいえ どちらともい かない	保護者の方のご意見	
保護者への説明責任・連携支援	1 支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明	3 1			11			
	2 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画を示しながらの支援内容の丁寧な説明	4			11			
	3 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対するペアレンツ・トレーニング等の支援の実施		4	放デイについては実施していない。保護者間の交流の場が持てるよう、時間帯は設定したもの、継続した実施が出来なかった。	10		1	子育て支援講座という名称で児童の保護者を対象とした取り組みを継続しておき、そのことを活かして、放デイにおいても時間を設定し、より計画性を持って実施していかたい。
	4 子どもの発達の状況や課題について、日頃から保護者との共通理解の徹底	2 2			10	1		「共通理解」というとできていない部分もあると感じており、保護者への伝え方や伝える内容等について、改めて確認していただきたい。
	5 保護者からの子育ての悩み等に対する相談への適切な対応と必要な助言の実施	1 3			10	1	向上	多くの保護者はできているとの回答であるが、「どちらともいえない」という回答をしっかりと受け止め、実際に利用回数が減っている時でも、保護者が安心できるよう、相談しやすい環境を整えていただきたい。
	6 父母の会の活動の支援や、保護者会の開催による保護者同士の連携支援		3 1	保護者会での活動は、講演会等を含み年間実施されている。	5	2	3	行事については例年実施のものは継続されているが、年齢に幅がある事もあり、かく、常に保護者間で交換や連携という事が難しそうである。事業所でも保護者が交流できる場面を検討していく。
	7 子どもや保護者からの苦情に対する対応体制整備や、子どもや保護者に周知及び苦情があつた場合の迅速かつ適切な対応		4	保護者の説明は契約時に説明する。実際に苦情のあつた場合はマニュアルに沿って対応し、法人内では定期的に委員会を実施している。	6		5	保護者には契約時に説明、又利用の際に苦情等について聞きがある事を改めて伝える事はあら、実際の苦情の公表等を直接受けにはしていないから、回答する事は少ないので半数である。これを踏まえ、保護者には改めて説明をしたい。
	8 問いあわせる子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮	3 1		子どもも保護者も個々に応じて対応に工夫をすることを心がけている。	8		3	保護者の「わからない」という回答を受け止め、職員間で検討したい。
	9 定期的な会報等の発行、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報についての子どもや保護者への発信	1 2	1	ホームページにて掲載。 年に1回、子どもも保護者、スタッフの思いを綴った文集を作成している。(保護者会と共に) 事業所内に活動や行事の様子を写真で記録し閲覧してもらえるようにしている。	6		5	保護者の回答結果を踏まえ、保護者への発信の方法を検討する。
	10 個人情報の取扱いに対する十分な対応	4		契約時に説明等を行い、その後も十分に配慮している。	9		2	保護者回答を受け止め、不信感が募らないよう、安心してご利用していただけるようにする。
非常時等の対応	1 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルの策定と、職員や保護者への周知徹底	4		同法人の保育所との連携により策定している。	5	1	5	職員での周知はしているものの、保護者への周知徹底がなされていないことが回答により確認されたため、周知していただきたい。
	2 非常災害の発生に備えた、定期的に避難、救出その他必要な訓練の実施	2 2		同法人の保育所の実施に合わせ、実施している。月1回の避難訓練は事業ごとに又、対象児ごとに実施できるように計画はしている。	6		5	様々な時間帯で実施を試みるようにして、子どもの特性を考慮した訓練により、実際を想定した際に必要な配慮等を確認できるようにしていく。
	3	3 1			/	/	/	
	4 やむを得ず身体拘束を行う場合における組織的な決定と、子どもや保護者に事前に十分に説明・了解を得た上で児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画への記載 <sup>6</sup>	1 1 2			/	/	/	前年からの課題であるが、身体拘束に関する内について事業所内でしっかりと確認ができないない為、これについて検討していく必要がある。
	5 食物アレルギーのある子どもに対する医師の指示書に基づく適切な対応	2 2			/	/	/	
	6 ヒヤリハット事例集の作成及び事業所内での共有の徹底	4		振り返りの機会にヒヤリハットについても考えるようになっている。 ノクンアンについても確認が取れていたが、ヒヤリハットについては職員間でもやや温度差があるかもしれないを感じる。	/	/	/	ヒヤリハットがどういった状況の時かを事例を基に職員間で共通認識し、アクシデントにつながらないようにしたい。

\*その他の意見  
支援内容はもちろん、いつもあたたかく出迎えてくれるので感謝しています。